

令和4年度

病害虫発生予察情報 第4号

4月月報

北海道病害虫防除所 令和4年(2022年)5月17日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－高気圧に覆われた日が多く、記録的な高温・少雨・多照。－

月平均気温の平年差は、太平洋側で4月として高い方から第1位、オホーツク海側で4月として高い方から第2位、月降水量の平年比は、北海道地方と太平洋側で4月として少ない方から第1位、月間日照時間の平年比は、北海道地方と太平洋側で4月として多い方から第2位の記録となり、記録的な高温・少雨・多照となった(統計開始は1946年)。

上旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間はかなり多かった。特に、太平洋側の日照時間の平年比は、1961年の統計開始以降、4月上旬として多い方から第1位の記録となった。また、一時的に寒気の影響を受けた日もあったが、高気圧に覆われて晴れて気温が上がったことや、南から暖かい空気が流れ込んだ日があったため、気温はかなり高かった。

中旬：天気は数日の周期で変わり、前線を伴った低気圧や気圧の谷の影響で雨の降った日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多く、太平洋側の降水量はかなり少なかった。

下旬：前線を伴った低気圧の影響で22日から23日にかけてと27日に雨が降ったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間はかなり多く、オホーツク海側と太平洋側の降水量はかなり少なかった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、気温はかなり高く、太平洋側の平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降、4月下旬として高い方から第1位の記録となった。

気候表(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間は比(%))を示す)

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22 地点平均	+1.9	か高	31	か少	133	か多
日本海側10 地点平均	+1.6	か高	41	か少	134	か多
オホーツク海側4 地点平均	+2.5	か高	42	か少	131	か多
太平洋側8 地点平均	+1.8	か高	14	か少	133	か多

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1991～2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0は調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 秋まき小麦

1. 雪腐病 発生量 やや多

予察ほにおける根雪始は、長沼町、芽室町、訓子府町全ての地点で平年より遅かった。融雪期は、長沼町では平年より遅く、芽室町では平年並、訓子府町では平年よりやや早かった。積雪期間は全ての地点で平年より短かかった。

主力品種「きたほなみ」における雪腐病の発病度は、長沼町では平年よりやや高く、芽室町及び訓子府町では平年並であった。病原菌種別で見ると、長沼町では雪腐褐色小粒菌核病、芽室町及び訓子府町では雪腐大粒菌核病が主体だった。

一般ほにおける発生面積率及び被害面積率は平年よりやや高かった。特にオホーツク及び十勝地方では被害面積率が平年に比べ高かった。病原菌種別では、雪腐褐色小粒菌核病、雪腐黒色小粒菌核病及び紅色雪腐病の割合が高い地域が多かったものの、空知、石狩、上川地方では褐色雪腐病の割合も高かった。十勝地方では雪腐大粒菌核病の割合が高く、一部の地域でスッポヌケ症の発生が認められた。

予察ほにおける積雪状況

地点	根雪始		融雪期		積雪期間(日)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	12月17日	12月7日	4月4日	3月28日	109	112
芽室町	12月17日	12月4日	4月4日	4月4日	109	122
訓子府町	12月22日	12月10日	3月27日	3月31日	96	112

予察ほにおける発生状況

地点	品種名	発病度		平年数
		本年	平年	
長沼町	きたほなみ	21.0	10.1	10
	チホクコムギ	45.0	20.4	10
芽室町	きたほなみ	36.6	32.3	10
	チホクコムギ	72.5	32.4	10
訓子府町	きたほなみ	26.5	25.1	10
	チホクコムギ	39.8	33.8	10

予察ほにおける病原菌種別発生割合(%)

地点	長沼町				芽室町				訓子府町			
	チホクコムギ		きたほなみ		チホクコムギ		きたほなみ		チホクコムギ		きたほなみ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	0	0	0	100	19	99	17	100	29	100	32
雪腐黒色小粒菌核病	0	7	0	4	0	23	1	18	0	38	0	34
雪腐褐色小粒菌核病	80	72	90	54	0	26	0	8	0	2	0	2
紅色雪腐病	20	17	10	37	0	32	0	57	0	31	0	32
褐色雪腐病	0	4	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0

一般ほにおける発生状況(振興局別調査結果)

振興局	作付面積(ha)	発生面積率(%)		被害面積率(%)		発生ほの病原菌種別発生割合(%)					
		本年	平年	本年	平年	大粒	褐小	黒小	紅色	褐色	その他
空知	15,085	15.7	35.4	0.8	8.4	0	52.9	5.9	15.5	25.7	0
石狩	6,233	49.3	47.2	7.3	13.6	0	36.5	17.1	11.8	34.5	0.1
後志	1,127	19.1	48.7	0.3	2.5	0	72.6	8.3	19.1	0	0
胆振	1,480	8.9	9.1	0.9	0.5	0.1	2.7	5.8	91.1	0.3	0
檜山	690	17.5	21.9	1.6	0.4	0	42.3	50.2	7.5	0	0
上川	9,763	61.3	58.8	11.1	13.2	0	19.2	17.8	37.3	25.7	0
留萌	681	85.6	55.1	3.1	17.4	0	80.5	0	5.0	14.5	0
オホーツク	21,605	46.6	34.3	6.5	3.8	2.6	4.4	53.5	38.3	1.2	0
十勝	41,800	46.6	19.8	6.3	1.5	62.9	0.7	21.4	12.5	0.3	2.3
全道計	98,464	42.7	31.6	5.8	4.7	29.8	11.4	27.1	22.5	8.3	1.1

注) 大粒：雪腐大粒菌核病、黒小：雪腐黒色小粒菌核病、褐小：雪腐褐色小粒菌核病、
 紅色：紅色雪腐病、褐色：褐色雪腐病、その他：スッポヌケ症等

2. 赤さび病 発生期 — 発生量 並

予察ほにおける「きたほなみ」の初発日は長沼町では平年より早かった。長沼町での発生量は平年並であった。芽室町及び訓子府町では発生は確認されていない。

予察ほにおける発生状況

地点	品種名	初発日		病斑面積率(%)*		平年数
		4月6半旬		4月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	きたほなみ	4月12日	4月22日	0.02	0.02	10
芽室町	きたほなみ	未発生	5月15日	0	0.01	10
訓子府町	きたほなみ	未発生	5月12日	0	0.00	10

注)*:全葉調査の平均値

3. うどんこ病 発生期 — 発生量 並

予察ほにおける「きたほなみ」の初発日は長沼町では平年よりやや早かった。長沼町での発生量は平年並であった。芽室町及び訓子府町では発生は確認されていない。

予察ほにおける発生状況

地点	品種名	初発日		病斑面積率(%)*		平年数
		4月6半旬		4月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	きたほなみ	4月29日	5月4日	0.02	0.02	10
芽室町	きたほなみ	未発生	5月19日	0	0.00	10
訓子府町	きたほなみ	未発生	5月9日	0	0.01	10

注)*:全葉調査の平均値

B. あぶらな科野菜

1. コナガ 発生期 早 発生量 多 <5月9日付け注意報第1号>

フェロモントラップによる雄成虫の初誘殺日は、長沼町、比布町、北斗市、芽室町及び訓子府町のいずれの地点においても平年より早かった。誘殺数は、いずれの地点においても平年より多かった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年								
4月1半旬	0	1.0	0	-	3	3.8	0	-	0	-
2半旬	0	0.3	0	-	15	1.8	1	0	0	-
3半旬	3	0.4	11	1.0	15	3.9	2	0.3	0	0.3
4半旬	2	0.8	1	3.2	24	5.1	4	0.3	5	0.1
5半旬	2	0.6	7	5.8	14	6.0	5	1.4	0	0.2
6半旬	2	1.8	14	9.5	27	6.1	6	0.8	0	0.6
初誘殺日	4月11日	4月21日	4月11日	4月18日	3月25日	4月12日	4月10日	4月24日	4月16日	4月28日
平年数	10		7		10		10		10	

C. りんご

1. ハダニ類 (リンゴハダニ) 越冬卵量 並

予察園の1短果枝当たり越冬卵数は、長沼町(無防除)で0卵(平年:0卵)、余市町(慣行防除)で0卵(平年:0卵)と平年並であった。

2. ハマキムシ類 (ミダレカクモンハマキ) 発生期 やや早 越冬卵量 多

予察園の5年枝3本当たりの越冬卵塊密度は、長沼町(無防除)で4.5卵塊(平年:0.3卵塊)と平年より高かった。余市町A(慣行防除)では0卵塊(平年:0.006卵塊)、余市町B(慣行防除)では0卵塊(平年:0.06卵塊)で卵塊は認められなかった。越冬卵のふ化始は、長沼町では4月30日(平年:5月4日)と平年よりやや早かった。